

俳句

北川 栄子
野瀬 章子 選
吉永 幸司

入選 秋暑し大きな辞書の小さき文字

長浜市 野口 成人

(評) 辞典の文字が小さく、調べるときに苦労をしています。その時の気持ちを大事にされた作品に共感しました。「大きな」に対する「小さき」という対比の上手さと「秋暑し」の季語の選び方が印象に残りました。(幸司)

特選 効能に霜焼とあり箱古く

西今町 勝 又 千恵子

(評) 昭和の風景を思い出しました。その頃、富山から葉の置箱を交換に来られるおじさんと母の会話を子ども心に覚えていました。霜焼けの葉も入っていました。時代を思い出させる「箱古く」という言葉の力が魅力の作品です。(幸司)

入選 周航船西日の湖を帰り来る

本庄町 田口 洋子

(評) 竹生島詣の周航船が今寄港の途について。折からの西日に照らされて船は速度を上げた。船内では周航の歌や蛍の光等の音楽が流れている。一日、旅を楽しまれたのだろう。「西日」が一句を引き立て良い句になった。(章子)

特選 ミモザの黄煙らす風の高さかな

佐和町 大久保 豊子

(評) ミモザの花は、オーストラリア原産、高さ十五メートルにもおよぶ常緑樹で葉は銀色に見えるので銀葉アカシアともいう。黄色の小花が群がり咲いて、はっとするほど美しく風の加勢にあたり一面煙った様な景色が目映る。(章子)

入選 若者は風を着こなす更衣

米原市 西尾 辰之

(評) 風を纏い颯爽と街を歩く若者の姿がイメージされ、若さが眩しく映ります。更衣自体が生活に減り張りを生み出しますが、風を旨く表現したことにより、より一層洒落た更衣の句に仕上がっています。(章子)

特選 百幹の風の端正城の梅

平田町 石田 そとゑ

(評) 彦根城は桜が有名ですが、米蔵跡の梅林も紅白とりどりで見応えがあります。「風の端正」と詠まれた事により、礼儀正しい武将の様な梅の姿と品格が想像され、いかにも城の梅らしい凛然たる様子が感じられます。(栄子)

入選 伝説を湖畔に沈め余呉涼し

東近江市 小泉 壽幸

(評) 羽衣伝説がある余呉湖は、時の流れを感じさせない神秘的な湖です。「湖畔に沈め」から羽衣を隠された天女の気持ちや、これからも心の湖であってほしいというエールを「余呉涼し」から感じました。(幸司)

入選 屋形船濠にのどけし艚の軋み

京町二丁目 堀井 叔子

(評) 心がびのびしてくるような春の一日。城濠を行き交う屋形船。船頭さんのゆつくりと漕ぐ櫂のきしみまで伝わって来る。季節にもって来られた「のどけし」が利いている一句。辺りの景が目に浮かんで来る。(章子)

入選 盤上の一手の乱る花吹雪

日夏町 寺村 澄子

(評) 満開の桜の下で将棋を指している二人の手が、思わず止まってしまう程の一陣の風なのです。駒も見えなくなる桜吹雪も、戸外ならではの楽しいハプニングであり、良い時間がゆつくり流れている様に思います。(章子)

入選 ちちろ鳴くはぎまの間に寝落ちけり

長浜市 樋口 満智子

(評) ちちろは蟋蟀のことで、つづれさせとも言われています。虫の音を聴くうちに寝入ってしまったと言う、何ともうらやましく思います。秋の夜長寝るもよし、読むも又良しです。(榮子)

入選 はじまりは一粒の種春動く

高宮町 前川 管子

(評) 春の気配を感じる頃、初めに何を思いつくかということとは人それぞれ様々です。作者は、生命力がある「一粒の種」に心が動いたのでしよう。「春動く」は、万物が動き始める季節感とともに心の動きを表現しています。(幸司)

入選 春灯やパズル解きゆく団地窓

東近江市 平田 三栄子

(評) 春の夕暮れ。街が黄昏に包まれる頃、団地の窓灯りが一つ、二つと灯っていきます。暫くしてから、灯りに目を注ぐと、まるで誰かがパズルを解いているような不思議な気持ちになります。「パズル」に注目しました。(幸司)

入選 渾身のさかあがり見せ卒園す

日夏町 寺村 房子

(評) 卒園式を間近に控えた園児。来る日も来る日も鉄棒にぶら下がり練習した結果、そのさかあがりの出来たよろこびは何に於いて例え難きもの。卒園式は二重の喜びであり、小学校に入學してもその努力は忘れないでほしい。(章子)

入選 輩の半ばも逝きし孟蘭盆会

大藪町 吉田 和治

(評) 輩とは同年輩か、前後してのお知り合いだろうか。孟蘭盆に招かれた作者が来てみて分か判ったことは、友人であった方が半分も鬼籍にあり、心寂しく感じたことをうまく仕上げられた。しみじみと余韻のある一句である。(章子)

入選 三番叟多賀の社の淑気かな

古沢町 戸成 晴美

(評) 淑気は、天地の間に満ち溢れるめでたい気配の事をさしています。雪が舞う寒い中でも奉納される、多賀大社の能、狂言を詠まれている、新年らしい清らかなめでたさが感じられます。(榮子)

佳作 堅牢な城の雁木や草萌ゆる

西今町 秋口 大門

佳作 不得意の午後の授業や目借時

西今町 前田 弘子

佳作 御朱印をたまはり島を徒歩小春

米原市 成宮 伯水

佳作 太文字の記帳のにじみ馬酔木展

米原市 田辺 仁美

佳作 あめんぼう水輪自在に乗りこなす

西今町 小沢 澤三

佳作 伊吹嶺の雲がかり見て種を蒔く

清崎町 村田 惇一

佳作 桑古木いまもポツンと河原畑

長浜市 勝木 珠緒

佳作 土もたげ草の色して茗荷の子

中藪町 山川 美江

佳作 二人居て今が一ばん菊薫る

開出今町 西崎 八重子

佳作 手を繋ぎ黙の二人や落葉道

後三条町 北村 しげ子

佳作 手入れよき庭の明るさ緑立つ

外町 知田 照子

佳作 雨上がり五感が誘う春の風

正法寺町 金子 君子

佳作 夜桜や天地真白夜明けかな

大藪町 上坂 千代子

佳作 落葉舞う心穏やか里の道

京町二丁目 川辺 由子

佳作 鴨翔ちし雫を湖にこぼしけり

米原市 日比 陽子

佳作 井伊の庭心もうばう朝の雪

東沼波町 石井 浪栄

佳作 見慣れたる麦藁帽のるる畑

東近江市 河崎 章

佳作 語らずもひじとひじ寄せみかん剥く

西今町 來本民世

佳作 手にとれば生命の匂ふ春の草

東近江市 福澤 啓一

佳作 鉄瓶に湯のたぎりをり桜餅

本町二丁目 中島暉枝

佳作 酌まずとも今年花見る幸せを

日夏町 寺村 しげる

佳作 柵越えてこぼれむばかり雪柳

犬上郡豊郷町 田中 マサ子

佳作 湖分かつ琵琶湖大橋寒明ける

地蔵町 佐古徳子

佳作 講堂の席限られて入学式

犬上郡豊郷町 伊香 とし子

佳作 春の草根はどこまでも力抱く

甲田町 平田政江

佳作 来る人も行くこともなく春は来る

鳥居本町 寺村美恵

佳作 奥社まで八十余段の四温晴

米原市 奥村和子

佳作 波静か薄紫に冬の比良

小泉町 北村邦彦

佳作 母の味受け継ぐ妻の鮎並ぶ

東沼波町 北川泰三

佳作 梅ふふむ香に誘はれて城の道

馬場二丁目 西村節子

佳作 親つばめ廃校跡に間借りする

甘呂町 近辻 真理子

佳作 書初に願い込めたり千支の丑

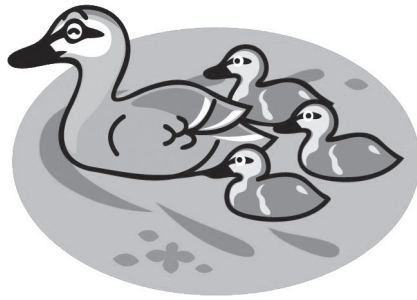
大藪町 藤谷 ゆう子

佳作 春日和大地の鼓動始まりて

東近江市 水沼久子

佳作 鴨帰る助走のしづき煌めかせ

西今町 松本トシ子



《総評》

昨年に続き、今年も新型コロナウイルスの影響を受けて皆様にお目にかかれず、とても残念に思います。

外出を制限されている中でも、しっかりと写生が出来ており、心の籠もった句が沢山ありました。それ等を拝見して選句にも自ずと力が入り、幾度も見直しながら選びました。

季題の説明をしない事、言い過ぎない事などを心に置いていただき、風光明媚の上、歴史と伝統のある彦根を隈無く詠み、来年の応募に備えて下さる事を望みます。

北川 栄子

暖かくなればコロナウイルスも少し治まり、句会や吟行にも行けると楽観的に思っておりましたが、衰えるどころか変異株が次々と現れます。ますます流行しております。

そのような中で沢山の応募がありました。昨年度より少し応募数が減少したことは残念ですが、皆様の力作をつぶさに拝見しました。

俳句は他の趣味とは異なり、吟行や句会を除けば一人でも十分に楽しめる趣味です。

どこへも行けないからこそ、窓からの眺めや庭の季節の移ろいの変化を敏感に受け止め自然を相手に心で遊んでみてください。四季は変わりなく春夏秋冬を運んできます。移りゆく自然と対話することで俳句、十七文字の存在意義をしっかりと把握できるはずです。約束事として、「かな」「けり」を重ねず、季語は一つであることを提出される前に再見願いたいと思います。

野瀬 章子

応募された作品は、自然や出来事と向かい合い、感じたこと等、言葉を選び丁寧に表現されてきました。作者の感動がよく伝わり、上手にまとめられて、すばらしいという感想を持ちました。その中で、特に、余韻があり、共感できる作品が印象に残りました。

俳句は十七文字の世界です。文章にすれば、かなりの文字にしないと伝わらないことを、短く表現することが求められているからです。当然、書きたいことを省くことが多くなります。省いた部分は読み手に任せるのです。したがって、言いたいこと、伝えたいことを、絞って表現することが大事です。それは、簡単に見えます。が、見たこと、感じたことの全てを作品に押し込もうとしなくなりません。そうならないためには、作品を読み返すことが必要になります。推敲の段階で、言い過ぎや季語の重なり等に気をつけて読み返すと、佳い作品に生まれ変わることがあります。推敲まで力を抜かないでほしいと思っています。

吉永 幸司

選者吟

贅沢に暇持てあましるる日永

北川 栄子

義仲忌かつて門前まで水辺

野瀬 章子

松の芯楷書のように天へ伸ぶ

吉永 幸司